

授業科目：	地域マネジメント論		
科目区分：	経営学科専門科目	受講者数：	42名
担当者：	和田 崇（経営情報学部経営学科）		
アクティブ・ラーニングのタイプ：	行動型 ・ <b>参加型</b> ・ 複合型（※行動型・参加型ALを組み合わせで実施）		
キーワード（具体的なAL手法等）：	ミニッツペーパー，意見表出とそれに対するコメント		

## 1. 授業の概要と目標

本授業は、「地域社会が持つ潜在力と内発的な力を組み立てることにより、身近な居住環境を改善し、まちの活力と魅力を高めようとする「まちづくり」の考え方と実践方法を教授する」ものであり、対面形式で実施している。

## 2. アクティブ・ラーニング導入の具体的な流れ

○科目名「地域マネジメント論」 第6回 授業テーマ「まちづくりと地方創生」

段階	指導過程・学修活動	指導上の留意点(工夫)	評価方法
導入 10分	前時(まちづくりのプロセス)に出された質問に対する回答 (フィードバック)(7分) 本時の目標の説明(3分)	質問への回答を通じて、前時の内容を振り返り、深化・定着させる。	
展開 70分	「地方創生」の政府定義の説明(5分)  「地方創生」をめぐる議論の説明(20分) 増田レポート(推進派) 山下レポート(懐疑派)  「地方創生」と「まちづくり」の共通点・相違点の説明(10分)  「地方創生」に関する新聞記事紹介(5分)  <b>意見記入</b> 増田レポート、山下レポート、新聞記事を踏まえ、「地方創生」に対する各自の意見をミニッツペーパーに記入・提出(10分)	1つの社会事象・政策に対して異なる立場・捉え方があることを説明する。  異なる2つの見方を偏りなく紹介したうえで、自分の意見を自由に記入してもらう。	意見の内容・熟度に応じて平常点(2点/回)をつける。
まとめ 10分	本時の活動の振り返り(10分) 学生が記入した意見をできるだけ多く紹介し(匿名で読み上げ)、それらに対して教員が適宜コメントする。	学生によっても多様な意見が存在することを認識させるとともに、コメントを通じて当該問題をより深く考えさせるように努める。	

## 3. 成果・効果

ミニッツペーパーをみると、ほぼ全員が用紙全体を使って意見を記入していることから、本時のテーマについて問題意識をもって講義を聴き、意見表出に参加していることがうかがえる。また、学生自身の居住地や日常生活など身近な話題を盛り込みながら、本時のテーマについて意見を表出していることから、「まちづくり」や「地方創生」を自らの問題として捉え、主体的に考えていることがうかがえる。

## 4. 課題

積極的な意見表出が得られたので、次回の授業で、本時授業で紹介できなかったいくつかの意

見をスクリーンに映しながら紹介した。しかし、時間の都合から、すべての意見を紹介することができなかった。来年度以降は、出された意見をもとに、「地方創生」の推進派と懐疑派に分かれてディベートを行うことも考えられる。

## **5. 資料**

プリント、新聞記事、ミニッツペーパー（本学所定の出席カード）